

自動梱包機 SQ-800 トラブルシューティング



△注意 【修理調整等作業における安全上の注意】

- ・ 修理調整等作業(以降「修理」)は必ず電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。
- ・ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないで、必ず電源プラグを持って抜いてください。
- ・ 高温の箇所がございます。手で触れることができるまで十分に冷ましてから修理を行ってください。
- ・ 詰まったPPバンドを手で引っ張るなど、PPバンドに触れる際、エッジで手を切らないように注意をしてください。
- ・ 電源OFFであっても部品を手動で動かす際は手を挟まないように十分に注意をしてください。
- ・ 修理後や修理中に動作確認が必要になる際は、上面テーブルを取り付けた状態で、安全に十分注意を払い確認を行ってください。
- ・ 修理を行っている作業員以外の方が誤って機械を動作させないように修理は1人で行って下さい。
- ・ 取扱と運転に関しては、取扱説明書の諸事項に従い、正しく安全に取扱と運転を行ってください。

項目	チェック項目	ページ
A. 電源が入らない	1. 電源コードの状態	3
	2. ブレーカーのON/OFF状態	3
B. 機械が動作しない	3. パイロットランプの点滅	4
	4. ERRORランプの点滅と点灯	4
	5. プールボックスにバンドが入っているか	5
C. バンドが接着しない	6. ヒーターに熱が来ているか。ブレーカーのON/OFF確認。…… (ヒーターの交換、掃除方法)	6
	7. 接着面はどのような状態か	7.8
D. バンドが送れない	8. バンドの通し方、タッチレバー位置は適正か	9
	9. T2ダイヤルの設定値は不足していないか	9
	10. プールボックスのバンド量は適正か	9
	11. バンドが詰まっていないか	10
	12. バンド(詰まり) 通路の掃除方法	10
	13. バンドが飛び出してしまう	11
	14. 正転ローラーに汚れ、磨耗は無いか	12
	15. ワイヤーが外れていないか	12
	16. バンドが適正に送られるか	13
	17. 正転タッチ圧の調整方法	13
	18. 正転ソレノイドの動きは正常か	13
19. 機械のタイミング(原点)はあるか	14	

項目	チェック項目	ページ
E. バンドが締まらない	20. T1(タイマー1)の調整が必要か 21. 逆転ローラーに汚れ、磨耗はないか 22. LS-5は正常か 23. リバースアッパーローラーが回転するか 24. バンドが適正に戻るか 25. 逆転タッチ圧の調整方法 26. プールボックスの扉が変形していないか 27. テンションローラーは磨耗していないか 28. 正転ソレノイドの動きは正常か 29. タッチローラーアーム上下の動きは正常か 30. アーチカバーの隙間はあるか 31. 機械の原点位置は合っているか	15 15 15 15 16 16 16 16 16 17 17 18
F. バンドが溜まらない	32. バランスバーは手で上下に軽く動くか 33. LS4(スイッチ)が壊れていないか 34. プール量の調整が必要 35. プール量の調整方法 36. リールが手で軽く回るか 37. ブレーキベルトセットの交換方法① 38. ブレーキベルトセットの交換方法② 39. バンド終了スイッチLS3が働いていないか	19 19 19 19 20 20,21 20,21 21
G. バンドが切れない	40. バンドが切れない、バンドの端が引きちぎったようになる	22
H. 急に動きがおかしくなった	41. 電気配線の接触不良	22
営業拠点一覧		23

A. 電源が入らない

【チェック項目 1】 電源コードの状態

**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

・電源コードの被覆が破れている、あるいはコンセントが破損している場合は、感電の恐れがありますので、確認作業は行わないでください。

■点検・修理方法： 電源コードの確認

コードの断線及び、コンセントまで電気が来ているかどうかを別のコンセントにつなぎ確認します。



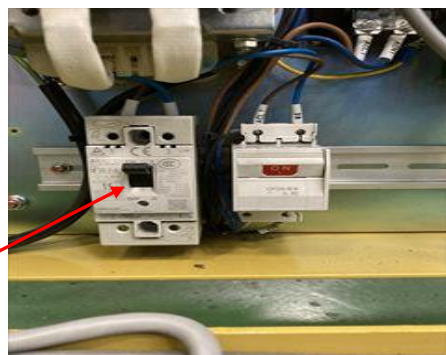
【チェック項目 2】 ブレーカーがOFFになっていないか

**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

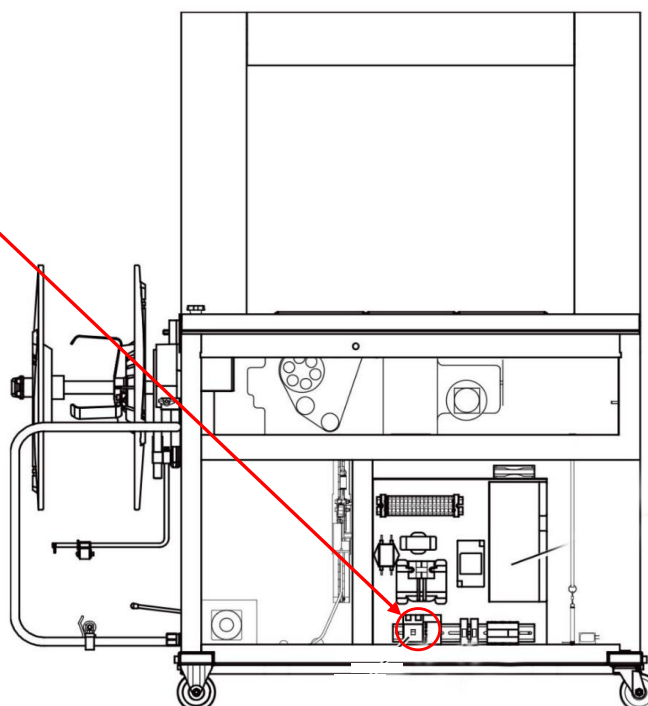
■点検・修理方法： ブレーカーの確認

機械背面の本体カバーを外し目視確認します。

ブレーカーのスイッチレバーが下がっていたら上にあげON状態にします。



ブレーカーのスイッチレバー



B. 機械が動作しない

【チェック項目 3】 電源表示ランプが点滅と点灯

⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください

■点検・修理方法：電源表示ランプが点滅している場合

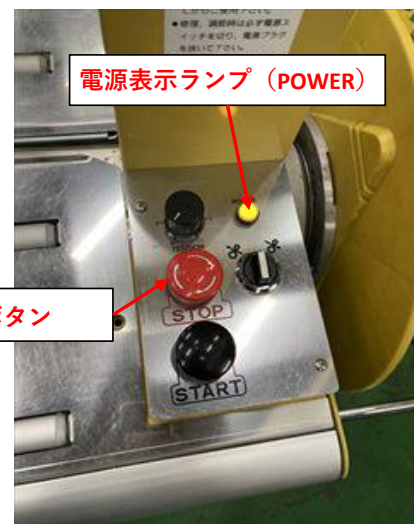
- 電源を入れて約25秒間はヒーター昇温中のため起動しません。
- バンドが終了した場合(LS-3がON)は、1梱包後に電源表示ランプが点滅し、機械が停止します。
- それ以外で動かない場合はERRORランプの点灯を確認します。

■点検修理方法：電源表示ランプが点灯している場合

- 停止SWが入っています。解除しても動かない場合は、販売店またはストラパックの最寄り営業拠点(P.22参照)にご相談ください。



- ・右に回すと解除
- ・押すと停止ロック



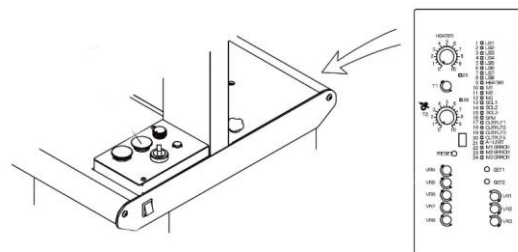
電源表示ランプ (POWER)

停止ボタン

【チェック項目 4】 ERRORまたはA-LIMITが点灯・点滅するか

⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください

- 21 A-LIMIT (FR・引締めモーター(M2)電流制限)
- 22 M1ERROR (カム軸タイムオーバー)
- 23 M2ERROR (引き締めモーター(M2)過負荷)
- 24 M3ERROR (プールモーター(M3)異常)

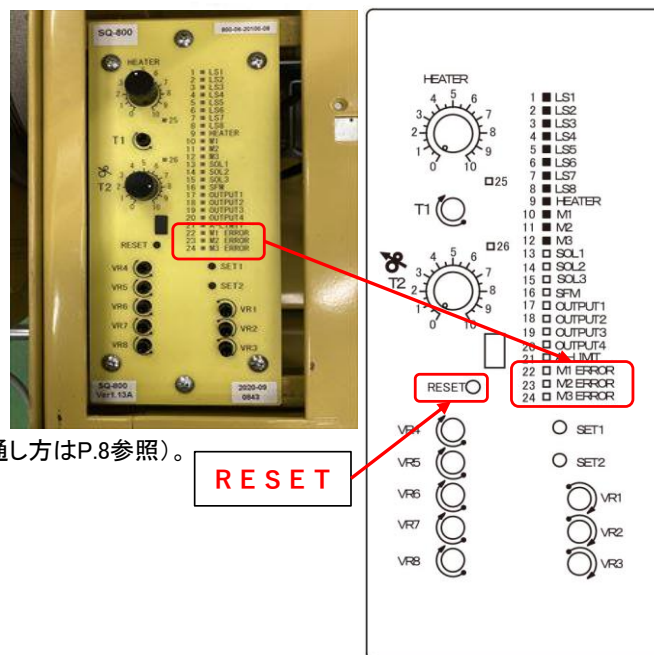
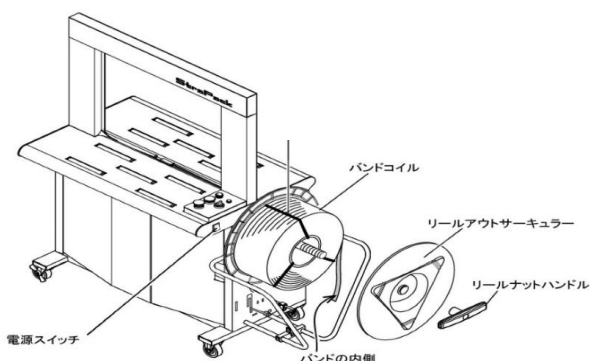


■点検・修理方法：ERRORランプが点灯・点滅している場合

- RESETを押しても再点灯や再点滅する場合はモーターの過負荷異常です。
- PPバンドやネジなどの異物が機内にはさまっていないかチェックします。
- (カム軸モーター)ハンドルを回してカムが回転するか？
- (引き締めモーター)ベルトが手でまわるか？
- (プールモーター)ローラー部にバンドが噛み込んでいないか？

■点検・修理方法：パイロットランプがゆっくり点滅する場合

バンドがなくなっています。バンドを交換しRESETを押します(バンドの通し方はP.8参照)。



RESET

B. 機械が動作しない

【チェック項目 5】 プールボックスにバンドが入っているか

**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

ブレーキベルトセットの開放不良で点灯する場合があります。

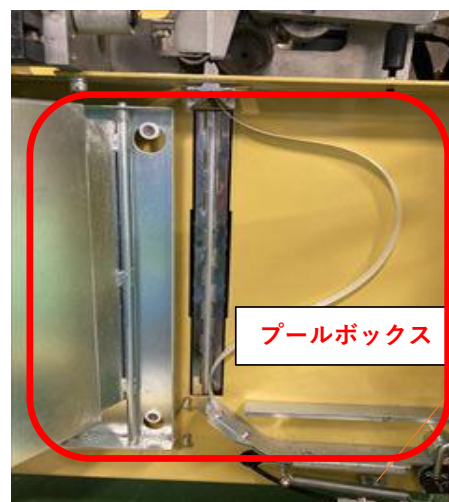
(ブレーキベルトセットの交換方法はP.19,20 ① 参照)



プールボックスのバンド溜まり不良でパイロットランプが点滅する場合があります。

機械前面の緑色の扉を開くと、緑色の扉があります。
右画像の赤枠内がプールボックスで、バンドが溜まる場所です。

(バンドが溜まらない:p.18 参照)



C. バンドが接着しない。

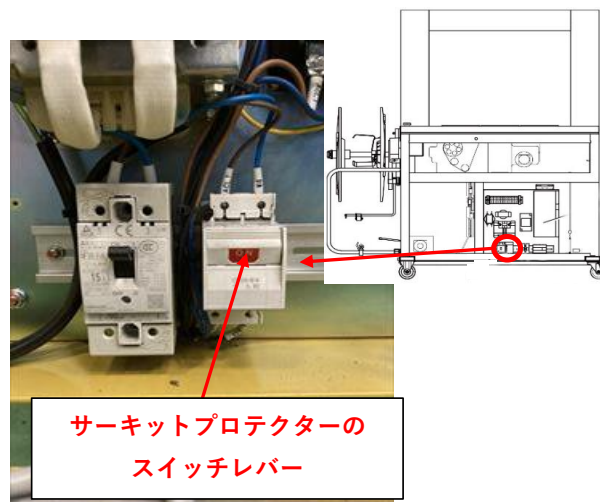
【チェック項目 6】 ヒーターに熱が来ているか。ブレーカーがOFFになっていないか。

- ⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。温度確認の再、直接手で触る、あるいは周辺に手を近づけると火傷のおそれがあります。絶対に行わないでヒーター部を手で触れることができるまで十分に温度が下がってから、ヒーター交換・清掃を行ってください。

■点検・修理方法

機械背面の本体カバーを外し目視確認します。

サーキットプロテクターのスイッチレバーが下がっていたら上にあげON状態にします。



熱が来ない場合、ヒーターを交換します。

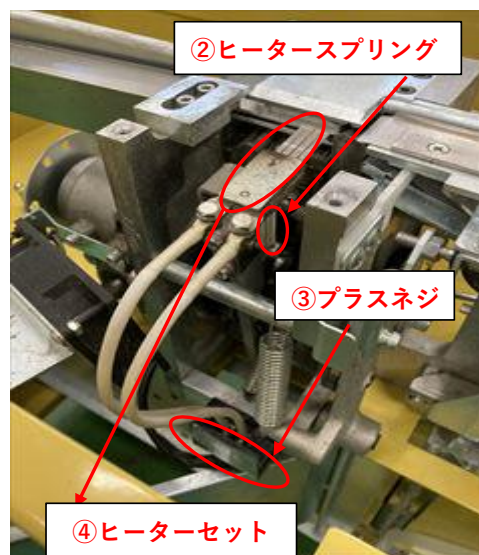
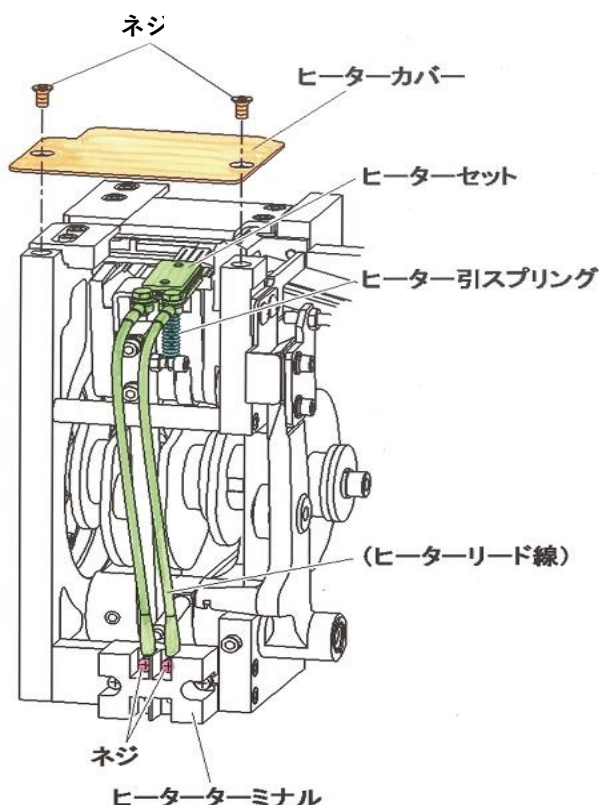
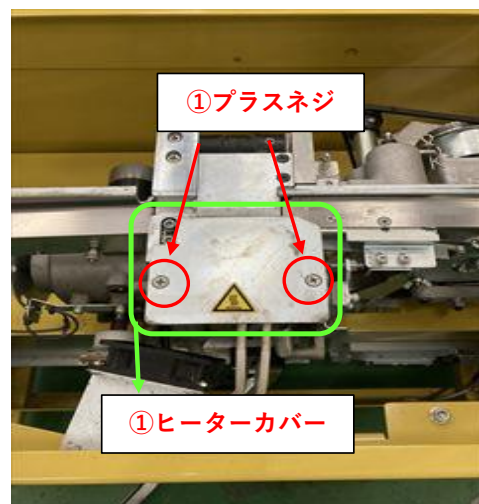
⚠ 必ず電源をOFFにしてヒーターが常温になってから作業してください

【ヒーターの交換】(下図参照)

- ①プラスネジ×2本を外し、ヒーターカバーを外す
- ②ヒーター引スプリングを外す
- ③ヒーターターミナルにヒーターリード線を固定しているネジ2本を外す
- ④ヒーターセットを外す
- ⑤ヒーターセットの組み立ては、取り外しの逆に組み立てる

【ヒーターの清掃】

バンドの焼けカスで接着面積が少なくなっている場合は、ヒータープレート上下面の焼けカスを、布ヤスリの目の細かいタイプで研磨・掃除します(鏡の様にピカピカが良い)。



C. バンドが接着しない。

【チェック項目 7】 接着面はどのような状態か

Photo1:ヒーター温度が適正な例

剥がす時にしっかり接着されていて力がある。
接着部分をはがした時に白くなっています。
(溶けた部分の面積が2/3以上)

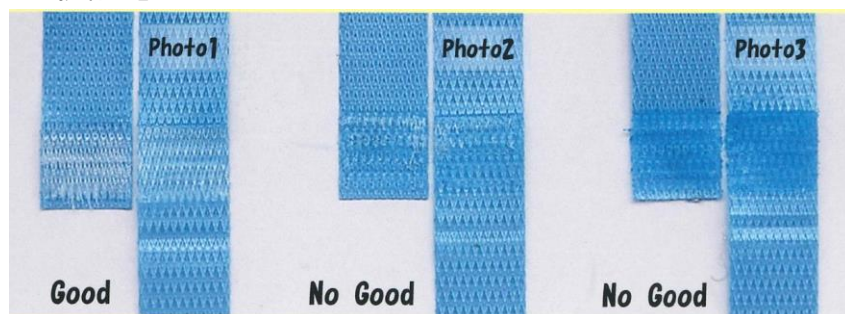
Photo2:ヒーター温度が低い例

簡単に剥がせる。
白い接着あとが少ない。表面がザラつかない。
⇒ヒーター温度調整ダイヤルを上げる

photo3:ヒーター温度が高い例

簡単に剥がせる。
白い接着面あとが少ない。表面がザラつく。
溶解部がバンド幅よりはみ出ている。
⇒ヒーター温度調整ダイヤルを下げる(温度が高すぎても接着しない)

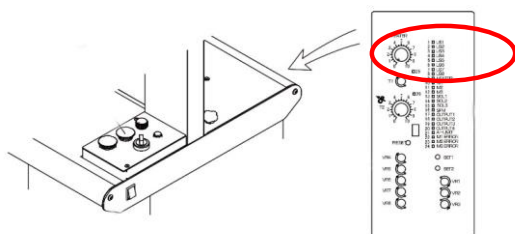
<接着面をはがしたバンド>



C. バンドが接着しない。

- 点検・修理方法：ヒーターの温度調整 Photo2・3の場合
制御ボックスにあるヒーター温度調整ダイヤルで調整を行います。
温度が高すぎても低すぎても接着しませんので、
大幅に回さずに数ミリずつ調整して下さい。

調整後、1分程経過してから接着のテストをします。

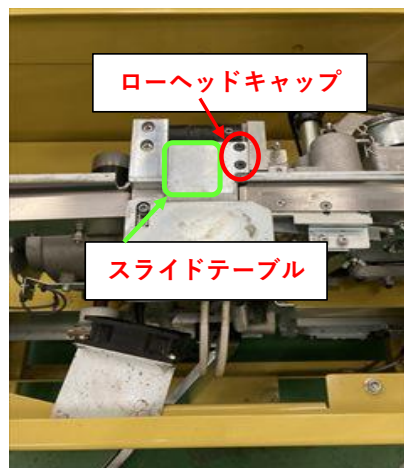


ヒーター温度調整ダイヤル

- 点検・修理方法：その他の調整

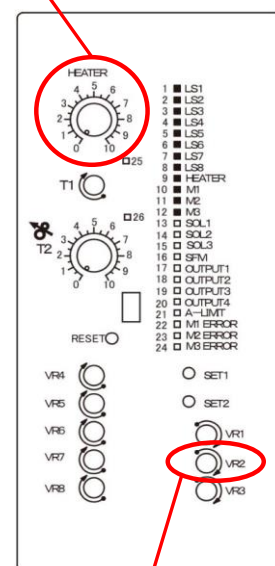
スライドテーブルがしっかりと固定されていないと溶着が安定しない

ため、ローヘッドキャップ(ネジ)の緩みがないか確認します



ローヘッドキャップ

スライドテーブル



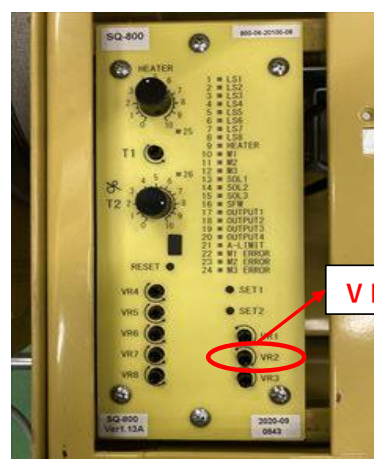
- 点検・修理方法：その他の調整

- ①梱包物に対して引締め力が強すぎる
(固い物・小さい物の締め過ぎによる)

常温環境でのヒーター温度調整ダイヤルの
ボリュームは4~5

- ②ヒーターの接着延長(設定時間分サイクルタイムを延長)
通常は初期設置の0で支障ないが、以下の場合には右へ45度
程度回す

- 固い梱包物を強締めする場合
- 接着条件の異なるバンド(発砲バンド等)を使用する場合
- 反発力の大きい梱包物で接着を安定させる場合



VR2ダイヤル

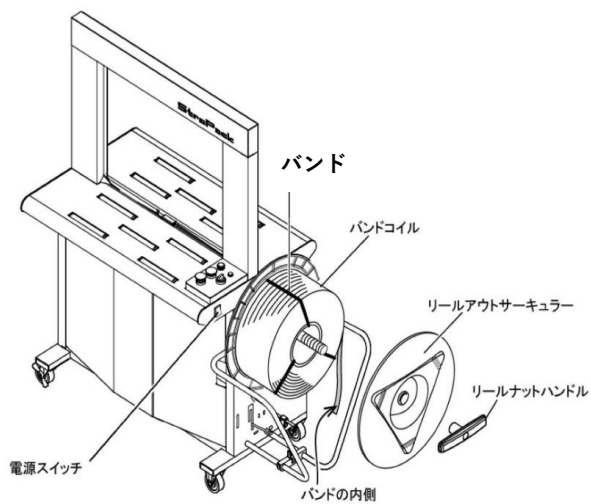
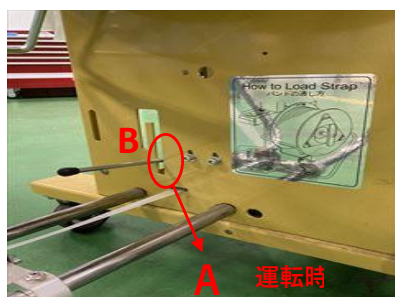
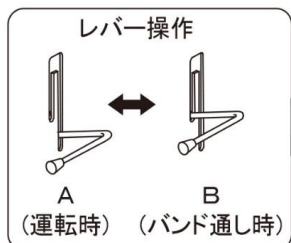
D. バンドが送れない

【チェック項目 8】 バンドの通し方、タッチレバー位置は適正か

**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

■点検修理・方法: バンドの装着及び通し方

正しいバンドの通し方は右図の通りです。また、タッチレバーがA(運転時)の位置になっているかを確認してください(下図)。
バンドは内側が下向きになるように通してください(右図)。



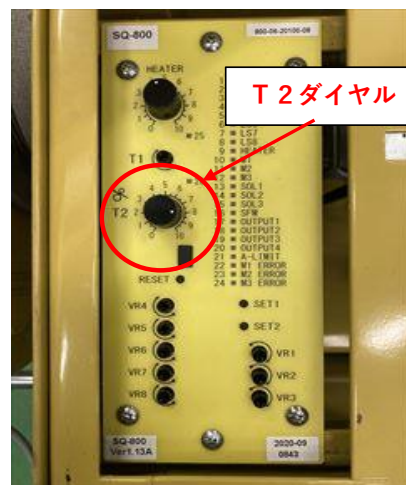
【チェック項目 9】 T2ダイヤルの設定値が不足していないか

■点検・修理方法: T2ダイヤルの調整

T2ダイヤルの設定値を上げて下さい。

T2=バンド送り時間調整ダイヤル

(参考)標準機W650×H500の場合、設定約7



【チェック項目 10】 プールボックスのバンド量は適正か

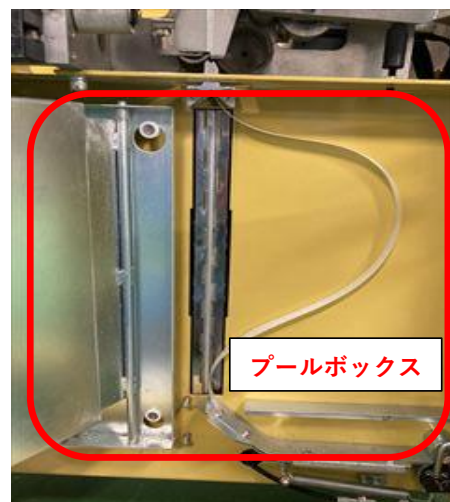
**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

■点検・修理方法: プールボックスのバンド量調整

バンドのプール量が多すぎても
少なく過ぎても動作不良が発生します。
アーチ全長の1.5倍程度が良い

(標準機 幅650×高500の場合 約3.5m)

⇒プール量の調整方法:p.18 参照ください。



【チェック項目 11】 バンドが詰まっているか

**⚠ P.1の「修理における安全上の注意」をご確認いただき
安全に十分注意を払いながら修理を行ってください**

■点検・修理方法: バンド詰まり確認

電源ONの状態ですべての停止SWを押し、手でバンドを下から送ります。詰まっている箇所を特定できれば、該当箇所を分解・掃除します。

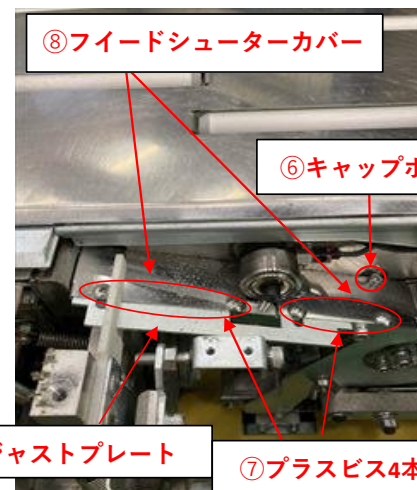
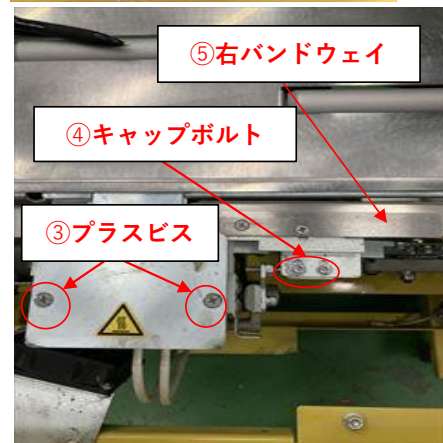
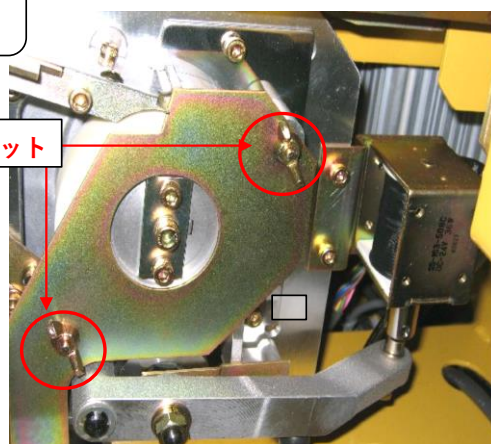
【チェック項目 12】 バンド(つまり)通路の掃除方法

電源を必ずOFFにして作業を始めて下さい。

フィードシューターの分解方法

- 1 ①チョウナット×2個を外す。
- 2 ②フィードバンドガイドセットを外す。
(手前に引き抜く)
- 3 ③プラスビス×2本を外す。
- 4 ④キャップボルト×2本を外す。
- 5 ⑤右バンドウェイセットを外す。
- 6 ⑥キャップボルト×1本を緩める。
- 7 ⑦プラスビス×4本を外す。
- 8 ⑧フィードシューターカバー(左、右)を外す。
- 9 ⑨バンドの通路を掃除し、組みなおします。

※組付け時にアジャストプレートが奥に入り過ぎているとバンドが引っ掛かります
隙間を少し開ける様にして下さい



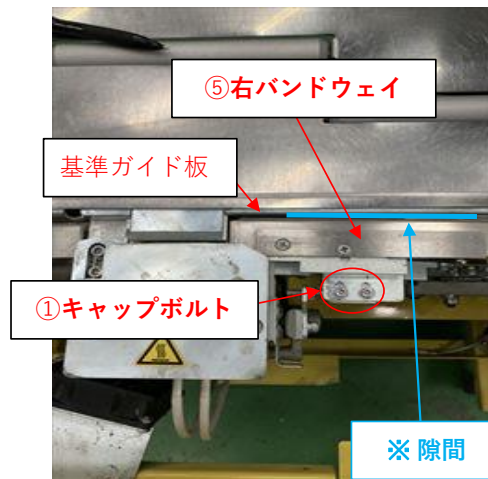
【チェック項目 13】 バンドが飛び出さないか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検修理方法：右バンドウェイセットの位置調整
バンドが飛び出す箇所を確認し、部品の破損
が無い確認します。

右バンドウェイセットの調整方法

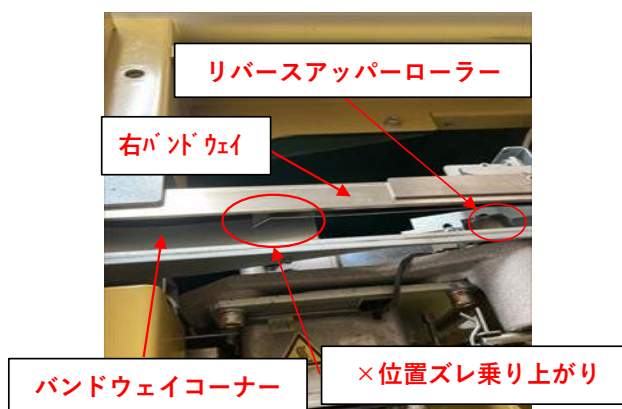
- ①のキャップボルト×2本を緩めます
- 上から目視した際に、ローラーが少しでも確認
できる位置に調整してください。
- 奥側の基準のガイド板に対し、2mm程度の隙間が
ある状態に右バンドウェイを調整してください。



<比較的多い例>

(右バンドウェイ位置ズレ)

右バンドウェイがバンドウェイコーナーの
上に乗り上がり



右バンドウェイの定位置がズレ

浮き上がりやバンドの引っ掛かり発生



右バンドウェイを手前に引っ張り

定位置に はめこむ

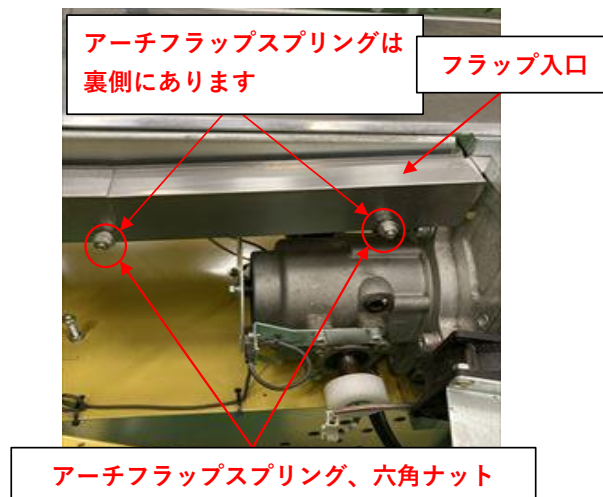
<比較的多い例>

(フラップ入口 位置ズレ)

アーチフラップスプリングが弱っています。

(バンドがフラップ入口と衝突、バンド飛び出し)

交換するか、六角ナット×4本を締め、
スプリングとフラップの隙間を詰め
フラップの閉まりを強くします。



【チェック項目 14】 正転ローラーに汚れ、磨耗はないか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

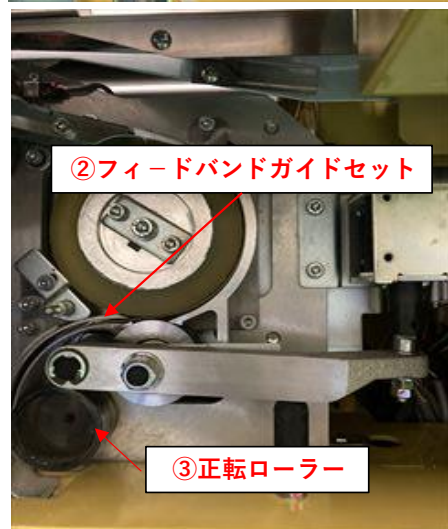
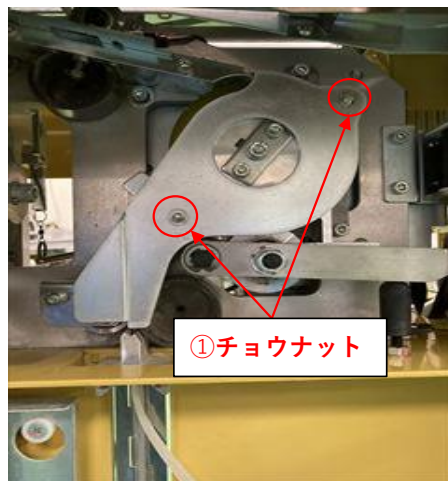
■点検・修理方法

①チョウナット×2個を外す。

②フィードバンドガイドセットを外す。

③掃除後、ローラーを布ヤスリの目の細かい
タイプにて研磨します。

(鏡の様にピカピカが良い)



【チェック項目 15】 ワイヤーが外れていないか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

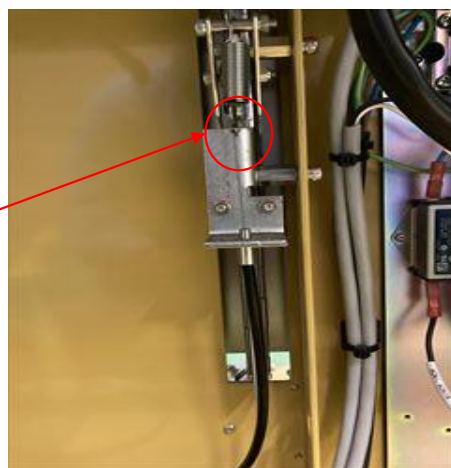
■点検・修理方法

ワンタッチ装填部、ワイヤーが外れていないか
プールボックスの裏側です

(機械を移動させる際の振動や重量物置く衝撃など
でワイヤーが外れている場合があります。)

右図が正常な状態です手で差し込み直してください

ソレノイドの動作不良でも発生します
(正転ソレノイドの動きは、正常か? P12 参照)



【チェック項目 16】 バンドが勢いよく送られるか。

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

勢いが無い場合、正転タッチ圧を調整します。

【チェック項目 17】 (正転タッチ圧の調整方法)

ロックナットを緩め、フィードスプリングアジャスターを調整(左回転で強くなります。)します。

注)微妙な調整のため一回転ごとにテストします。

【チェック項目 18】 正転ソレノイドの動きは、正常か

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

ソレノイドを手で押し動かして軽く動かない場合、
ソレノイドプランジャーに軽く注油します。

注油しても動きの悪い時は分解清掃します

松葉ピンを2個外す

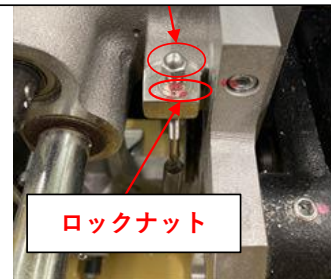
ソレノイドプランジャーを後ろの方に引き抜く
(プレートを少し持ち上げると抜けやすい)

スプレーオイルを染み込ませた布ウエスなどで
プランジャーを清掃をする
(コイル側は短い棒に布を巻き付けて 穴の内部清掃)

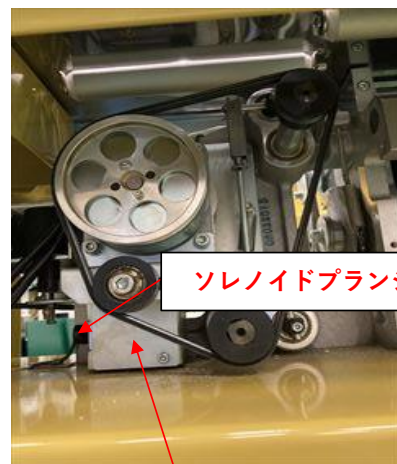
改善されない場合は、最寄の弊社営業所に連絡下さい。



フィードスプリングアジャスター



ロックナット



ソレノイドプランジャー



プレート

松葉ピン

ソレノイドコイル側

ソレノイドプランジャー

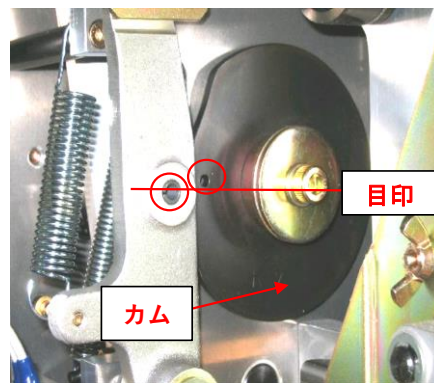
【チェック項目 19】 機械の原点位置は合っているか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

機械が停止状態で、カムが右図の位置で
停止していない場合は原点位置を調整します

(原点位置の調整方法:p.17 参照)



(メモ スペース)

・バンドが締まらない。

【チェック項目 20】 T1(タイマー1)の調整が必要か

商品が小さい場合など引き締めが不安定な場合

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

T1ダイヤルを
20度程度 右に回してください
(T1 引き締めキャンセルタイマー:出荷時設定0)

【チェック項目 21】 リバースアッパーローラーに汚れ、磨耗はないか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

掃除後、ローラーを布ヤスリの目の細かいタイプ
にて研磨し面を平らにします。(鏡の様にピカピカが良)

【チェック項目 22】 LS-5(近接スイッチ)は正常か

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

指で逆転ローラーを回転させ、LS-5が赤く
点滅しない場合、交換します。

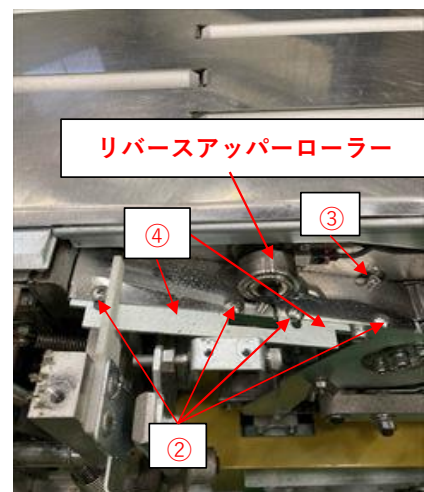
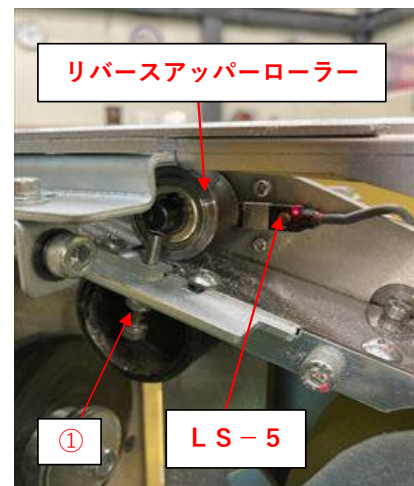
【チェック項目 23】 リバースアッパーローラーが回転するか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

正逆スイッチで逆転させ続けた時にリバースアッパローラー
が回転しない場合、キャップボルトの位置が高い
か、シューターカバー左、右の取付不良です。

- ①ロックナット×1個を緩めキャップボルト×1本の高さを下げます。
- ②プラスネジ×4本を外す。
- ③キャップボルト×1本を緩める。
- ④シューターカバーを左右に拵げてセットします。



【チェック項目 24】 バンドは勢いよく戻るか(チェック項目4確認後)

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

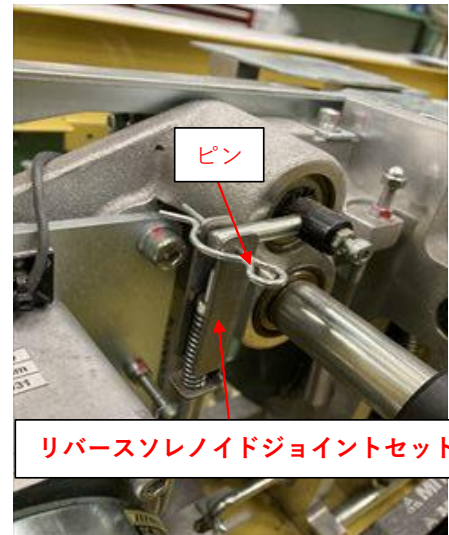
勢いがない場合、逆転タッチ圧を調整します。

【チェック項目 25】 逆転タッチ圧の調整方法

ピンを引き抜き、リバースソレノイドジョイントセットを
調整(右回転でタッチ圧が強くなります)。

調整が微妙ですので、1回転ごとにテストします。

リバースソレノイドジョイントセット
(モーター、ベルトの付近になりますので、確実に
停止させてから作業して下さい。)

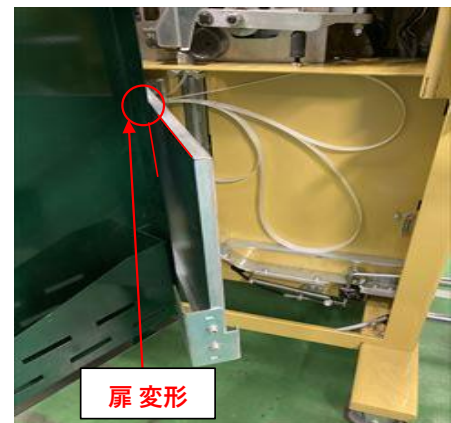


【チェック項目 26】 プールボックスの扉が変形していないか。

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

扉が変形 曲がっている事が有り、
扉を閉めた時にプールボックス内部で
PPバンドが押し付けられ動かなくなります

曲がった扉は取外し変形部の
加圧修正してください。



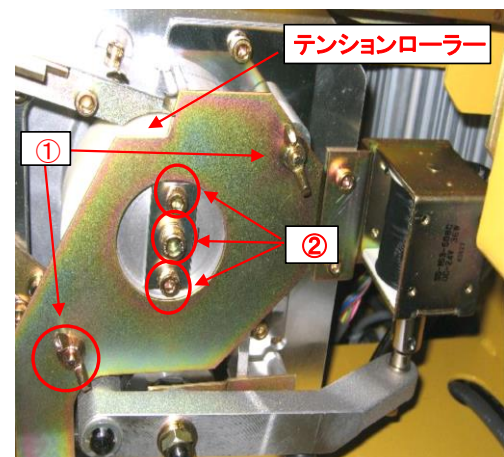
【チェック項目 27】 テンションローラーは磨耗していないか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

指で磨耗が確認できれば、①チョウナット×2本と

②キャップボルト×3本を外し、交換します。



【チェック項目 28】 正転ソレノイドの動きは正常か。

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

正転ソレノイドの動きが悪い場合も引き締め不良を起こします
動作不良の場合は注油、掃除下さい。

(通常は動作時にNOとOFFで左右にソレノイドプランジャーが素早く動きます)

(正転ソレノイドの動きは、正常か P15 参照)

【チェック項目 29】 タッチローラーアーム上下の動きは、正常か。

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

タッチローラーアームは軽く指で触ると上下に動きます
通常下側に下がっているのが正常です

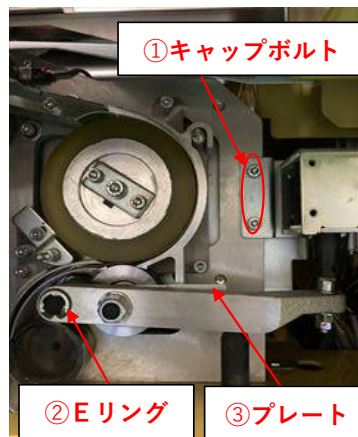
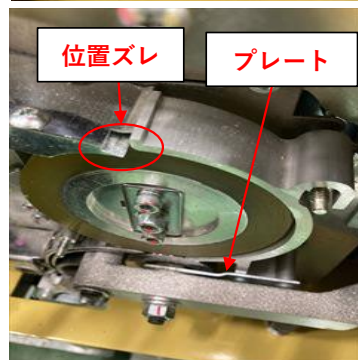
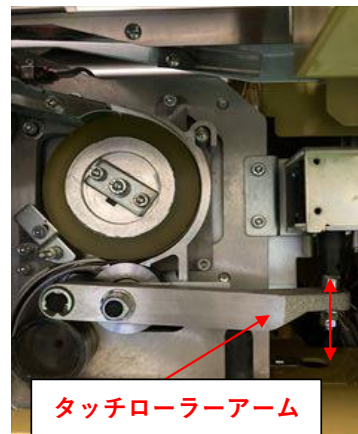
上側に持ち上がった状態ではPPバンドの
正逆転が出来なくなり結束不良が発生します。

(比較的多い例)

変形による位置ズレの為、
カバーを取り付けると上下に動かなくなる

- ①キャップボルト2本を外す
- ②Eリング(ストップリング)を外す
- ③タッチローラーアームを手前に引き抜き
プレートの変形を修正する

(外した部品を手に持ち、ひねり曲げ加圧にて修正出来ます)



【チェック項目 30】 アーチカバーの隙間はあるか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

PPバンドが逆転引き戻し時に 引っ掛からない様に

カバーネジの固定、カバーが変形している場合は

曲げ修正して下さい

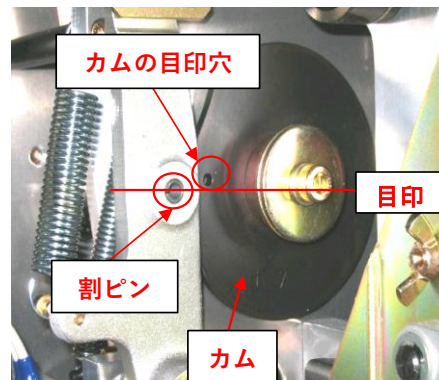


【チェック項目 31】 機械の原点位置は合っているか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

機械が停止状態で、カムが右図の位置で
停止していない場合は原点位置を調整します
・「カムの目印穴」と「割ピン」が水平に近い写真のような状態

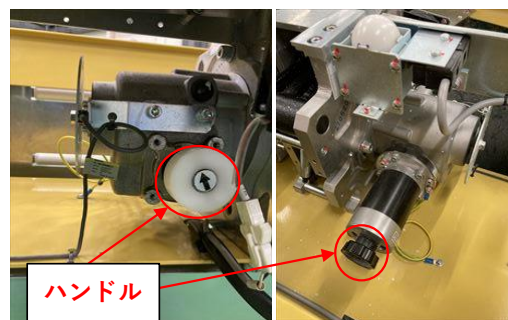


(原点位置の調整方法)

都度の停止SWを押し、安全に御注意下さい。

①起動SWを押し、次に機械が動作を終了して
から停止スイッチを押し機械が動かない様になります
(原点とは正常に起動しワンサイクル終了停止位置)

②矢印の樹脂ハンドルを手で回転させ
カムの位置を原点に戻す

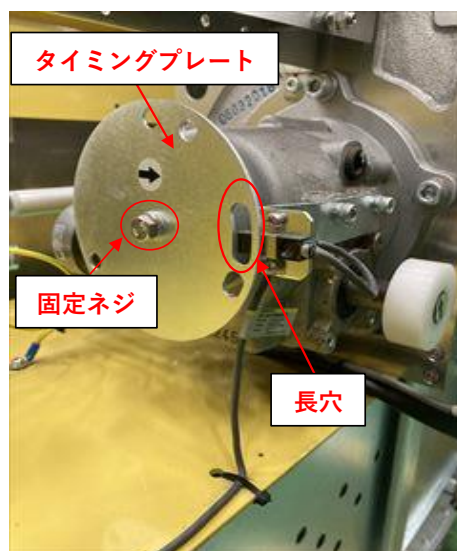


③固定ネジ1本を緩めタイミングプレート
の取り付け位置を調整します

④停止スイッチを解除し、起動スイッチを押し
ワンサイクル起動後にカムが原点位置で
停止するか確認

一番大きな長穴が停止位置

※微量で矢印の位置が大きく変わるので
少しずつタイミングプレートの位置を
何度も微調整し確認する事が必要です



・バンドが溜まらない。

プールボックスには、通常アーチサイズの1.5倍のバンドがたまっています。

(標準機W650×H500の場合、約3.5m)

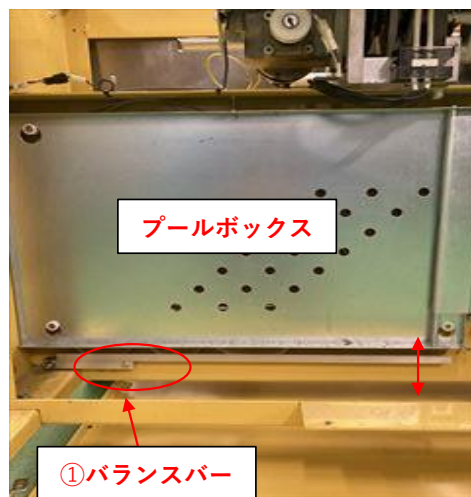
【チェック項目 32】 バランスバーは手で上下に軽く動くか
電源を切った状態で動作確認をします

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■点検・修理方法(動かない場合)

①バランスバーがボディに接触しています。

注油、もしくはプラスネジ×2本を外してバランスバーを交換します。



【チェック項目 33】 LS-4が壊れていないか

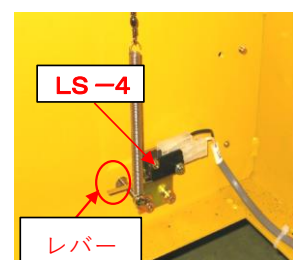
△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■点検・修理方法(動く場合①)

機械背面の本体カバーを外し確認します
電源入り(ON)で停止スイッチを押して
機械が動かないようにします



機械の背面右下側にある
LS-4のレバーを手でON、OFF
コントロールボックスの
LS-4表示ランプが点滅しなければ
交換します。



【チェック項目 34】 プール量の調整

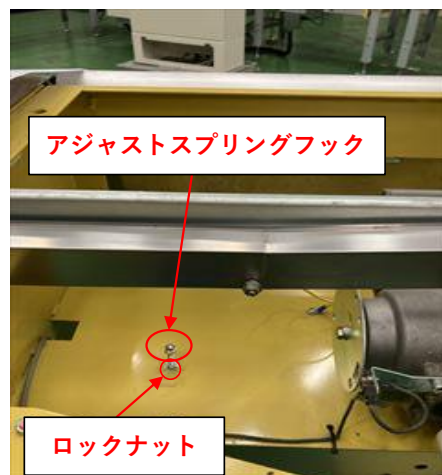
△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

【チェック項目 35】 (プール量の調整)

■点検・修理方法

LS-4、バランスバーを確認後、ロックナットを緩め、アジャストスプリングフックを調整

左回転でプール量が増加します。
右回転でプール量が減少します。



【チェック項目 36】 リールが手で軽く回るか

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

【チェック項目 37 38】 ブレーキベルトセットの交換

■点検・修理方法

リールブレーキアームセットを下げ、リールを手
で回した際、回らないのであればブレーキベ
ルトセットを交換します。

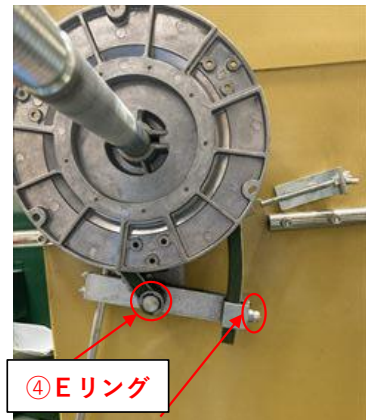
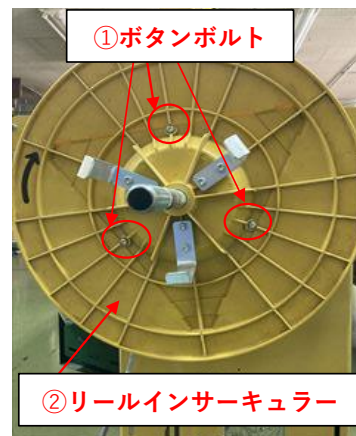
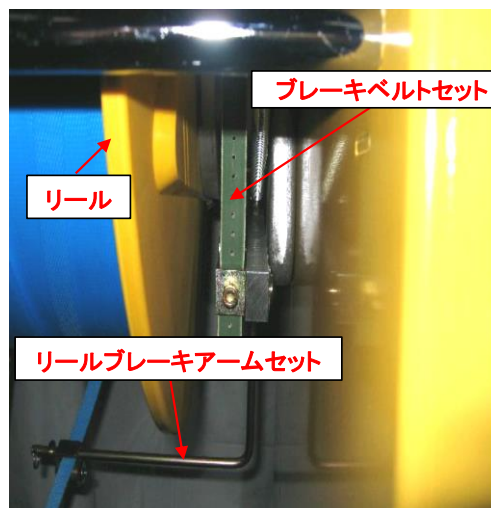
(ブレーキベルトセットの交換方法①)

①リール内側のボタンボルト×3本を外す。

②リールインサーキュラーを外す。

③ロックナットとキャップボルトを外し
ブレーキベルトを引き出す

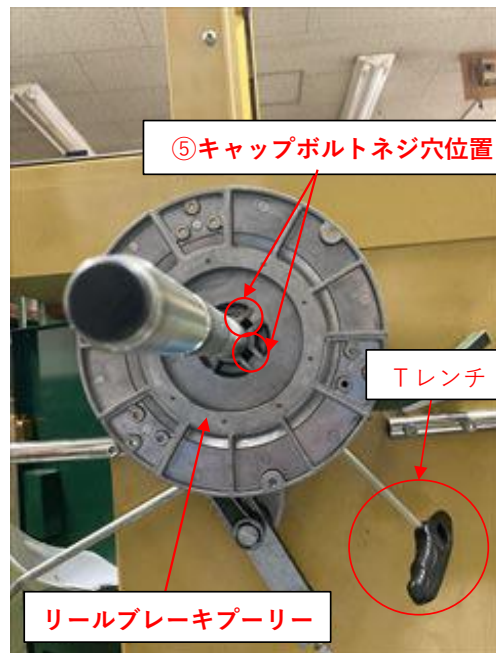
④Eリングを外す



(ブレーキベルトセットの交換方法②)**⑤キャップボルト2本を外す**

下側から覗き込むとネジが回せる様に
リールブレーキプーリーセットに穴があります

リールブレーキプーリーセットが
手前に引き抜けます

**⑥ブレーキベルトセットを交換する。****⑦元通り組み、ブレーキベルトセットの端から**

2～3個目の穴位置にキャップボルトが当たる
ように調整します。

**【チェック項目 39】 バンド終了スイッチLS-3が働いていないか**

(パイロットランプが点滅して機械が停止する)

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■点検・修理方法

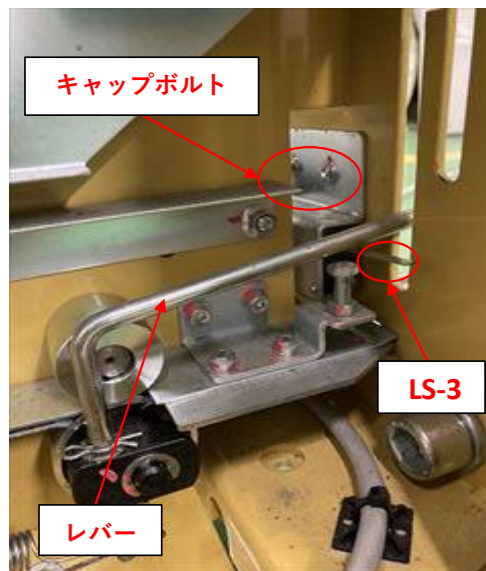
使用するバンドや部品摩耗によって
位置調整の必要が有ります

LS-3バンド終了スイッチの取り付け位置を調整
外側から2本のキャップボルトを緩め調整

正常な状態は

バンドを通した状態ではレバーと板パネは
接触しない

バンドが無い状態ではレバーと板パネは
接触レバーが押し付ける



・バンドが切れない。

【チェック項目 40】 バンドが切れない、バンドの端が引きちぎったようになる？

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■点検・修理方法

カッターの交換が必要です。最寄の営業拠点(P.22参照)にご相談ください。

急に結束できなくなった

【チェック項目 41】 電気配線の接触不良か。

急に結束できなくなった(機械の動作が 普段と違う)

△注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■点検・修理方法

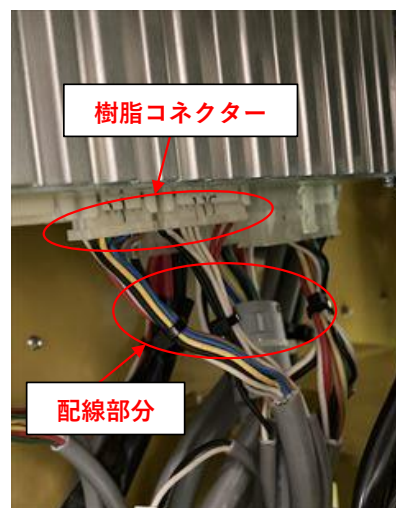
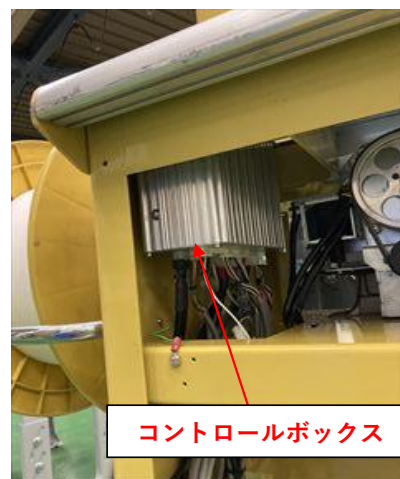
電源を必ずOFFにして作業を始めて下さい。

コントロールボックスの配線コネクタ接触不良
配線コネクタの脱着(抜き差し)をして下さい

(例:機械を移動させる際の振動や重量物置く衝撃などで配線の接触不良が発生しているか可能性が有ります。)

※配線部分を引っ張らない

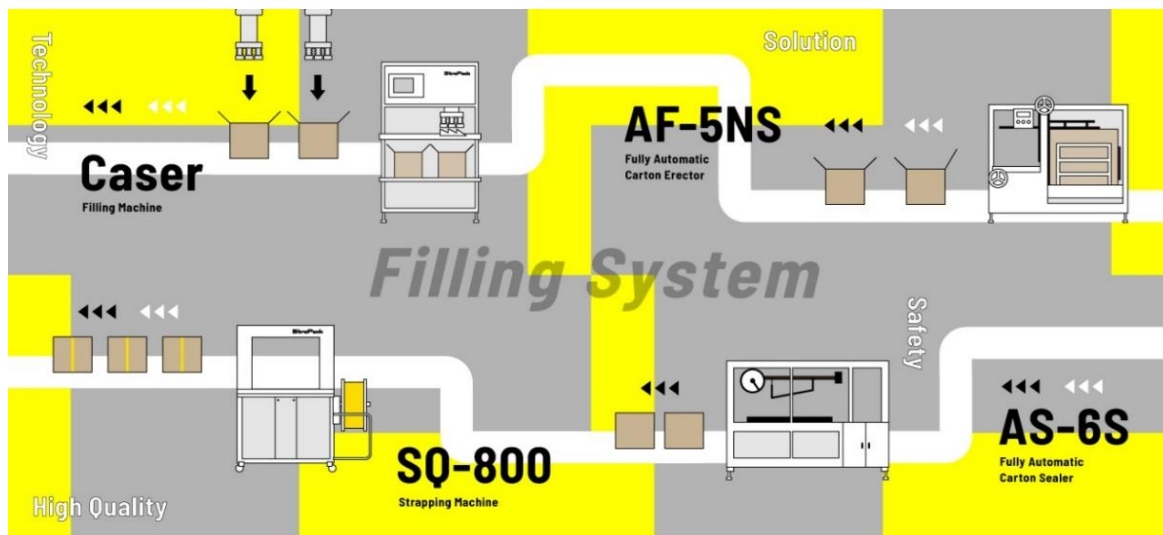
(無理に引っ張ると断線し正常に動かなくなります)
必ず樹脂コネクタ部を つかんで引き抜いてください。



・営業拠点一覧

ストラパック株式会社

修理のご依頼やご相談をされる際は、お買い上げの販売店またはストラパックの営業拠点、ストラパックホームページの「修理に関するお問い合わせ」からご連絡ください。 → <http://www.strapack.co.jp/maintenance>
 ご連絡の際は、製品左側に記載の「機種」、「機械番号」および故障状態をお伝えください。



・本社	東京都中央区銀座8-16-6 銀座ストラパックビル	TEL:03-6278-1801	FAX:03-6278-1800
・カスタマーサポートセンター	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7245	FAX:045-475-7252
・営業企画室	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7211	FAX:045-475-7220
・札幌支店	札幌市中央区大通東9-1	TEL:011-241-6335	FAX:011-222-3728
・旭川SSP	旭川市十条通22-1-12	TEL:0166-34-9597	FAX:0166-34-9534
・仙台支店	仙台市若林区鶴代町2-11	TEL:022-232-7459	FAX:022-231-0779
・郡山営業所	福島県郡山市八山田4-125	TEL:024-938-7210	FAX:024-932-2977
・盛岡SSP	岩手県盛岡市緑ヶ丘3-4-33-102号	TEL:019-601-9531	FAX:019-601-9557
・東京支店	東京都北区浮間3-14-4	TEL:03-3965-6181	FAX:03-3558-0240
・筑波SSP	茨城県石岡市山崎1028-2	TEL:0299-46-4551	FAX:0299-46-4553
・横浜支店	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7260	FAX:045-475-2260
・甲府SSP	山梨県甲府市幸町13-21	TEL:055-232-6405	FAX:055-232-6404
・高崎支店	群馬県高崎市上並榎町113-1	TEL:027-370-2181	FAX:027-370-2026
・新潟SSP	新潟市東区粟山1-20-18	TEL:025-384-8601	FAX:025-384-8605
・名古屋支店	名古屋市守山区白山1-1003	TEL:052-769-0251	FAX:052-769-0261
・北陸SSP	石川県金沢市東力4-97-10	TEL:076-292-6027	FAX:076-292-0247
・静岡営業所	静岡県焼津市三ヶ名382-1	TEL:054-628-1315	FAX:054-628-2025
・大阪支店	大阪市西淀川区佃5-5-2	TEL:06-6473-7241	FAX:06-6473-7236
・岡山営業所	岡山市北区今8-13-17	TEL:086-244-4112	FAX:086-243-3470
・高松支店	香川県坂出市府中町5573-6	TEL:0877-48-2114	FAX:0877-48-2142
・広島支店	広島市南区東出雲本町2-10-28	TEL:082-282-3011	FAX:082-283-9210
・福岡支店	福岡県太宰府市水城3-12-34	TEL:092-921-3400	FAX:092-925-2332
・鹿児島営業所	鹿児島市伊敷町4743-3	TEL:099-228-7611	FAX:099-228-7600
・沖縄SSP	沖縄県浦添市宮城3-10-1-B102	TEL:098-879-4515	FAX:098-879-4515